

1年生道徳授業 「くりのみ」(親切, 思いやり)

1. ねらい

身近な友達と助け合うことの大切さに気づき、困っているときには互いに助け合おうとする心情を育てる。

2. あらすじ

きつねは、どんぐりを見つけたにもかかわらず、それを1人で食べたり、何も見つからないとうそをついたりする。うさぎは2つしかないくりのみを1つきつねに渡す。

3. 授業の様子

授業の中では、2つしかないくりのみをきつねに1つ分けてあげたうさぎの気持ちに焦点を当てて話し合いました。友達であるきつねのことを思う、うさぎの気持ちを1年生なりの言葉で考えることができました。

また、授業のはじめだけでなく、おわりにも「友達とはどんな人か」という質問をしましたが、学習を通して考えに以下のような変化が見られました。「友達」という存在についての考えがより具体的になりました。



○「うさぎには、どんな気持ちがあったのか。」

- ・きつねのことを考える気持ち
- ・きつねを見捨てない気持ち。
- ・友達の心を大切にすること。
- ・独り占めをしないで、くりのみと一緒に食べたい気持ち。
- ・友達の苦しんでいる顔を見たくないという気持ち。
- ・きつねを喜ばせたい気持ち。
- ・きつねがかわいそうだと思う気持ち。
- ・きつねを助きたい気持ち。

○「友達とはどんな人か」

授業のはじめ

- ・やさしい人
- ・仲よくなった人
- ・一緒に遊ぶ人
- ・仲間に入れてくれる人

授業の終末

- ・困ったときに助けてくれる人
- ・話を聞いてくれる人
- ・よく友達の気持ちを考えてくれる人
- ・明るい心にしてくれる人
- ・気持ちを伝えてくれる人
- ・自分だけでなく他の人のことも考えられる人

4. お家の方へ

1年生は、入学してから友達と一緒に学習したり、遊んだり、助け合ったり協力し合ったりして生活する中で、友達のよさを感じられるようになってきています。その反面、友達との関係が広がってきたことで、自分勝手に行動してしまったり、自分の気持ちを十分に伝えないまま過ごしてしまったりすることがあります。今回の授業を通して、困っている友達に対してとるべき行動や自分が助けてもらったときにとるべき行動について考えるきっかけになったと思います。

ぜひご家庭でも道徳の授業の内容について話題にいただき、よりよい友達との関わり方について話をするきっかけにしてほしいと思います。